

スーパーグローバルハイスクール申請の経緯

熊本県立済々黌高等学校

背景

グローバル化の急速な進展
(人・物・情報が国境を越えて行き交う大競争時代)

人材育成

教育改革

- 1 大学入学者選抜制度の改革
- 2 高等学校教育の質の向上
【グローバルリーダーとなるための国際的素養と総合力を育成する学校】

日本の国際競争力は60ヶ国中24位に低下

日本の現状と課題

- 1 知識・技能を活用して考え、判断する力
- 2 高卒時の英語力(英検2級以上の力)
- 3 海外留学者数の減少

グローバルリーダー

- ・社会課題に対する関心と深い教養
- ・コミュニケーション能力
- ・問題解決力

対応

新たな取組

- 1 英語教育強化 CEFR B1, B2以上の語学力
- 2 高校留学促進
- 3 国際バカロレア導入、海外大学進学促進

SGH スーパーグローバルハイスクール

社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力(語学力)、問題解決力等の国際的素養を身につけたグローバルリーダーの育成

(取組)

- ・課題研究を中心とした教育課程の研究開発・実践
- ・グループワーク、ディスカッション、論文作成、プレゼンテーション、プロジェクト学習の実施
- ・海外の高校、大学と連携したフィールドワーク、海外研修
- ・外国人留学生とのアカデミックなワークショップ
- ・課題研究内容に関する専門性を有する帰国・外国人教員の活用
- ・大学との連携 課題研究に関する指導を行う外国人教員の派遣
- ・海外研修等の企画

具体的取組

- ・支援対象: H26より5年間
- ・支援規模: 1校あたり1,600万円、56校指定 / 全国246校申請

本覺がSGH指定を求めた背景

明治15年に創立、県内で最も古い歴史と伝統を有する。現在地域の拠点校である鹿本、八代、天草を分校とし、一幹両枝の関係にある熊本高校、現在尚綱高校となる女学校もまた本覺に遡る。卒業生総数は4万人を越え、国内外の政治・経済・医療・科学分野をはじめ、様々な分野で活躍している。「三綱領」を旨とし、心身ともに健全に育て、将来は心豊かに、国内のみならず世界の舞台上でリーダーとなり得る人材育成を図ることが本覺の使命である。

済々黌高校

本校で求める生徒像

(1) 建学の精神である三綱領を根幹とし、節義を重んじ、人格や品性を高め、文武両道の気風を尊重した教育活動を実践する中で、他者への思いやりを大切に、社会に貢献する生徒・心身ともに逞しく豊かな人間性を備えた生徒・志を高く持ち、自ら求めて学ぶ生徒の育成を図る。

(2) 急速にグローバル化する国際社会において、国家を支える人材の育成を図ることも本校の使命であり、世界を舞台に挑戦し、様々な分野で活躍できるグローバルリーダーの育成を図る。

SGHの人材像と三綱領の共通点

「知識を磨き 文明を進む」

政治・外交・経済・思想・文化各界に幾多の人材を輩出

→グローバルリーダー

明治初期 官民挙げての旺盛な知識欲と欧米文化摂取の有様

→グローバル化への迅速な対応

宮内省よりの恩賜金

済々黌の教育精神が中央に認められた結果

→SGH指定

知識を磨き文化国家の建設に尽力し、世界の平和と人類の福祉に寄与する

→グローバルな社会課題を発見・解決
グローバルなビジネスで活躍